



乳用牛群検定普及定着化事業

# 検 定 組 合

牛群検定だより

第6号(2010.3)

発

発行元：(社)家畜改良事業団 電子計算センター

〒135-0041 東京都江東区冬木11-17 イシマビル18F  
Tel 03-5621-8921(直) FAX 03-5621-8922  
e-mail: webmaster@liaj.or.jp URL: http://liaj.lin.gr.jp/

## 様々な頭数規模の農場が加入する

### 岩手県・南部地域乳牛改良検定組合

農協の組織替えに伴って、検定組合の再編があり、旧雫石町乳牛改良検定組合と旧滝沢村乳牛改良検定組合とが合併した。平成20年12月から「南部地域乳牛改良検定組合」という新名称で業務を続けている。

\* \* \* \* \*

両管内とも活力のある酪農地帯であるが、御多分に漏れず年々酪農家が減ってきたことが主因で、検定組合も合併を余儀なくされた。戸数が減っても、結果的には核となる酪農家が踏み止まり地域酪農の中核となって発展し続けている。

管内には、別格な規模を誇る小岩井農場が含まれる。ここには2つの牛舎があって、一つは検定事業発足時からの「つなぎ牛舎」、他方は約600頭規模の「フリーストール鶴ヶ台牛舎」である。

\* \* \* \* \*

発足時を想うと、事務局は雫石町農協にあり岩持組合長の下で当時の杉田部長、小岩井農場の一条部長や野沢部長らが検

定組合の設立を画策し、積極的に係わり推進してこられた。

\* \* \* \* \*

現在は、松原検定組合長の下「情報は生もの」との観点で、検定記録の送信や検定組合を通した各種帳票のフィードバックについて、迅速な処理を行い、牛群検定の効用を高めている。



松原杉見検定組合長



# 検定組合の概要と活動

1. 事務局は、新岩手農協・南部営農経済センター内にあって、雫石町と滝沢村を区内とする。



砂沢さん(左)と川崎さん

2. 事務局には2名の農協職員が常勤し、組合員の指導・相談に対応している。

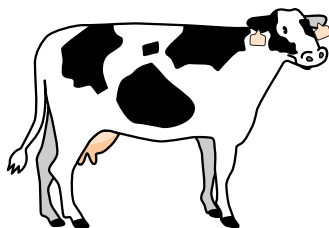
## 3. 牛群検定の実施状況

	雫石町	滝沢村	計
酪農家戸数	24戸	17戸	41戸
検定農家戸数	19戸(21牛群)	6戸	25戸
検定員数	3名	3名	6名
一人平均受持			
農家戸数	4.2戸 (25戸÷6人)		
検定頭数	250頭 (1,500頭÷6人)		
検定牛頭数	約1,500頭 (平均60頭/戸)		

注)自家検定の盛岡農校と畜産研究所を除く、検定員の多くは元酪農家

## 4. 直近の牛群検定成績の平均値と目標値（経産牛1頭当りの年間成績）

	19年	20年	21年	目標値
乳量kg	8,755	8,657	8,550	8,800<
F %	4.13	4.08	4.15	3.80<
P %	3.20	3.24	3.25	3.20<
SNF%	8.65	8.77	8.73	8.70<
			体細胞数	30万>
			分娩間隔	13.5月>
			飼料効果	3.0<



(平成21年度検定組合事業計画より)



# 民間最大の小岩井農場

1. 企業の継続とは「一本の灯を守っていくこと(扇谷)」と言われる。小岩井農場も農林畜産業の充実を目指して、120年もの間一貫して生産農場であり続けてきた。

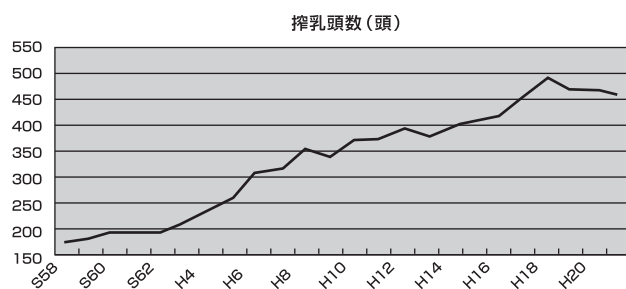
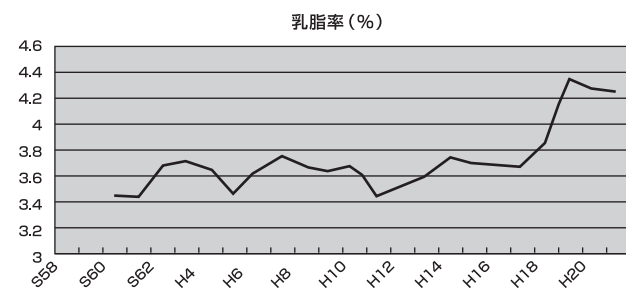
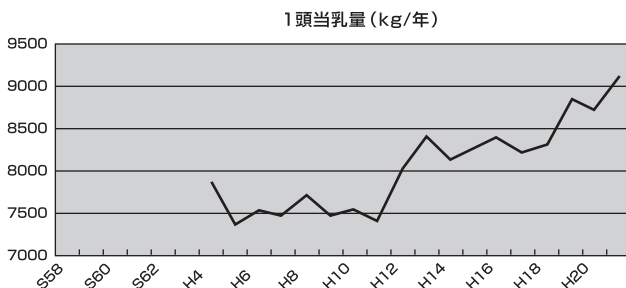
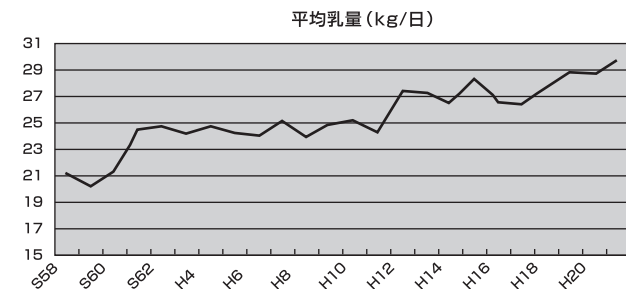
長い歴史と伝統を守り、しかも今なお発展し続けていることは驚きである。その企業努力と継続の力には感嘆させられる。

2. 小岩井農場は、あまりにも有名で蛇足は要らない。農林畜産関連を軸とし多角的な経営を展開して、民間トップクラスの規模であることも周知のとおり。

今回は、数ある事業の中から酪農部門の一端を覗いて見た。



70年以上の歴史ある搾乳牛舎



3. 明確な定義づけはないが、年間1千トン以上を生産し出荷の大規模牛群は「メガ・ファーム」とか「ギガ・ファーム」と呼ぶことがある。最近3千トン以上の経営体も見られるが、小岩井農場はそれ以上である。

4. 農場全体の総頭数は2,167頭、職員は38名。経産牛600頭の鶴ヶ台牛群は搾乳作業は朝夕3名、給餌はTMR方式で朝夕2回、ボロ出しも2回の作業工程。牛群検定は30年前から実施してきた。左図の年次別の平均乳量、1頭当たり乳量など着実な伸びが見られ、これが収益性の高さにつながっていることが、検定記録で確実に読み取れる。



パーラー施設の外観



## 大規模牛群！

# 小岩井農場における牛群検定の有用性！

### 有用性1 検定成績表でのミーティング！

小岩井農場では飼料、繁殖、搾乳と担当が分かれている。牛群検定成績をもとに、ミーティングを随時開き、繁殖サイクルや搾乳衛生に問題があればメンバーで原因を探り、改善に役立てている。

### 有用性2 自給飼料の品質チェック！

その原因が飼料の品質に帰結し、コーンの詰込み時の天候に左右されることもある。粗飼料分析値だけでは分からない、牛に食べさせて、さらに牛群検定結果をみてはじめてよし悪しを判断できる。

### 有用性3 少しの改善が大きな収益！

牛群検定結果で重視している項目は乳量、体細胞数、分娩間隔。酪農経営で大きな損失をまねく乳房炎、繁殖障害、肢蹄障害には特に注意している。大規模経営だからこそ、少しの改善が大きな収益につながる。観察をこまめにして、わずかな変化も見落とさないきめの細やかな管理を心掛けている。

### 有用性4 職員間の共通言語！

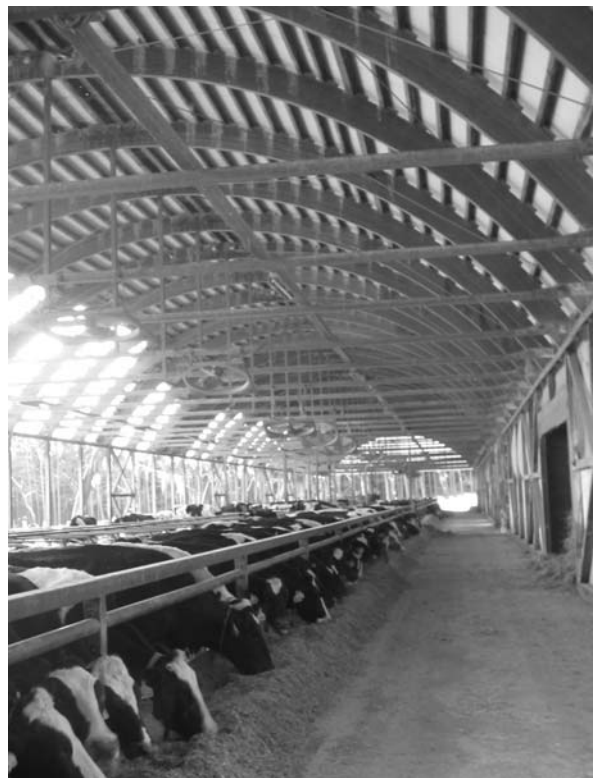
牛群検定を職員間の共通の言語として活用し経営内容の改善を図る。その中で新しい人材が育ち農場の伝統を守っていく。これこそがスケールメリットに頼るだけではない大規模農場としての小岩井農場の強みではなからうか。



牛群検定新成績表の勉強会



管理の行きとどいた牛群



フリーストール鶴ヶ台牛舎



ご案内いただいた足立課長(右)、畠山課長代理(中央)、細川主任(左)